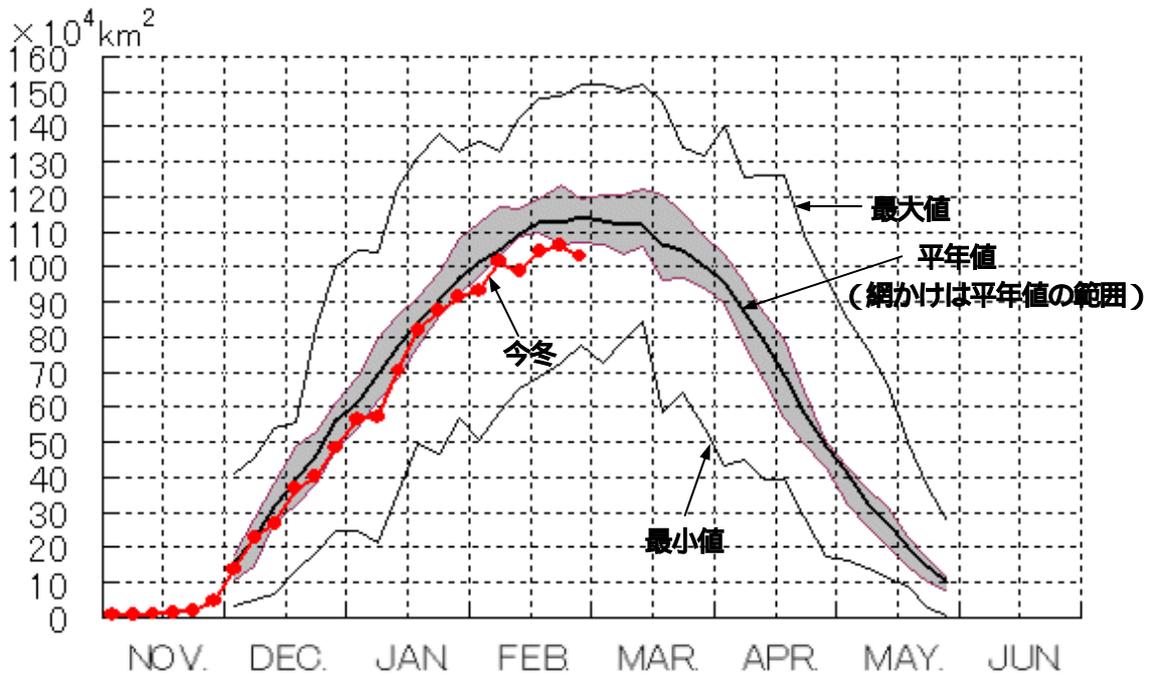


# 海氷概報

## 第 2 報

2007 年 2 月



今冬のオホーツク海の水氷域面積の経過図(2007年2月28日まで)

# 札幌管区気象台

## 目 次

1. 解 説	1
1.1 用 語	1
1.2 海水の種類とその記号	1
2. 海 氷 概 況	2
3. オホーツク海全域の海水分布図	3
4. 北海道周辺海域の海水実況図	5
5. 沿岸海水観測月表	7
6. 参 考 資 料	13
6.1 オホーツク海30年平均半旬別氷縁図(1970/1971～1999/2000)	13
6.2 流水初終日等の平年値(1971～2000年の平均)	15



オホーツク海周辺図

# 1. 解 説

## 1.1 用 語

### 海 氷 用 語

- 海 氷：海水が凍結してできた全ての氷。  
 定 着 氷：海岸に接して形成された定着している海氷。その場の海水が凍結するか、流氷が海岸に固着して形成される。  
 流 氷：定着氷以外の全ての海氷で、その形態や配置には関係しない。  
 新 成 氷：結氷により新しく形成された氷の総称。  
 密 接 度：ある氷域に対し、その中の氷に覆われている海表面の占める割合を10分位法で表したものの。  
 水 路：海氷域の中で、海上の航行が可能な狭い通路。  
 開放水面：航行可能な広い海域。

### 沿 岸 の 海 氷 現 象

- 流 氷 初 日：視界外の海域から漂流してきた流氷が、視界内の海面で初めて見られた日。  
 流 氷 終 日：視界内の海面で流氷が見られた最後の日。  
 流 氷 期 間：流氷初日から流氷終日までの日数。  
 全 氷 量：視界内の全海面に対し、この中に存在している全海氷の占める割合。10分位法で示す。  
 流氷接岸初日：流氷が接岸、または定着氷と接着して沿岸水路が無くなり船舶が航行できなくなった最初の日。  
 海 明 け：全氷量5以下になり、かつ沿岸水路ができて船舶の航行が可能になった最初の日。

## 1.2 海氷の種類とその記号

種 類	記 号	細 分 種 類	記 号	厚さ、大きさ等
新 成 氷	N	晶 氷	Cr	
		グリーンアイス	Gr	
		雪 泥	Sl	
		スポンジ氷	Sg	
ニ ラ ス	Ni	暗いニラス	Nd	厚さ 5cm 未満
		明るいニラス	Nl	厚さ 5～10cm
		氷 殻	R	厚さ 5cm 程度
はす葉氷	P	はす葉氷	P	厚さ 10cm 程度 直径 30～300cm
板状軟氷	Y	薄い板状軟氷	Y1	厚さ 10～15cm
		厚い板状軟氷	Y2	厚さ 15～30cm
一 年 氷	W	薄い一年氷	W0	厚さ 30～70cm
		並の一年氷	W1	厚さ 70～120cm
		厚い一年氷	W2	厚さ 120cm 以上
砕 け 氷	Br	砕 け 氷	Br	直径 2m 以下
板 氷	Ck	小 板 氷	Cs	直径 2m 未満
		板 氷	Ck	直径 2～20m
氷 盤	F	小 氷 盤	Fs	直径 20～100m
		中 氷 盤	Fm	直径 100～500m
		大 氷 盤	Fb	直径 500～2000m
		巨 氷 盤	Fv	直径 2～10km
		巨大氷盤	Fg	直径 10km 以上
		大 氷 岩	Fl	氷高 5m 以下
平たん氷	L	平たん氷	L	
変形氷	H	氷 丘	H	

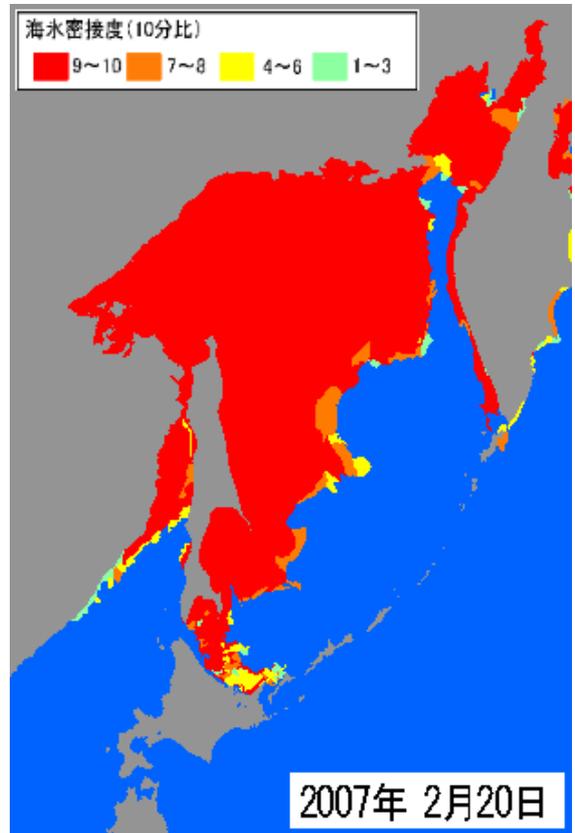
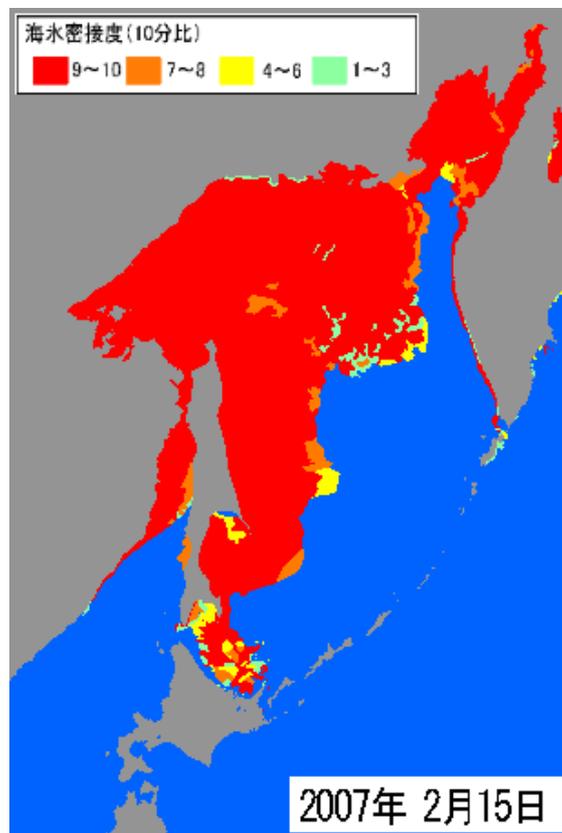
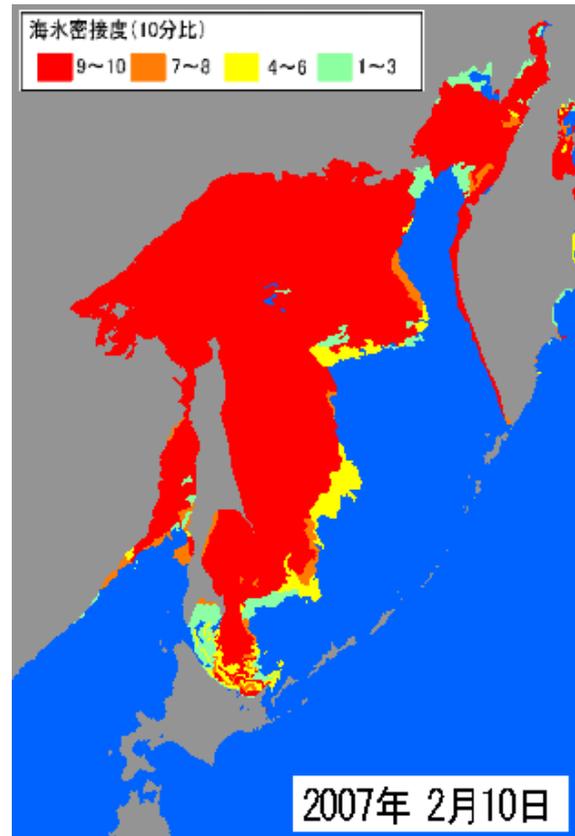
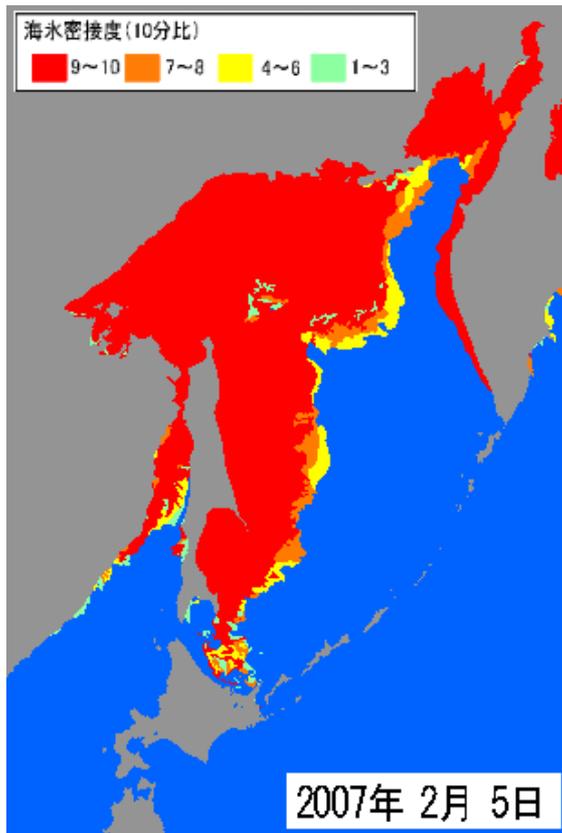
(注)厚さ 10～15cm は 10cm 以上 15cm 未満とする。

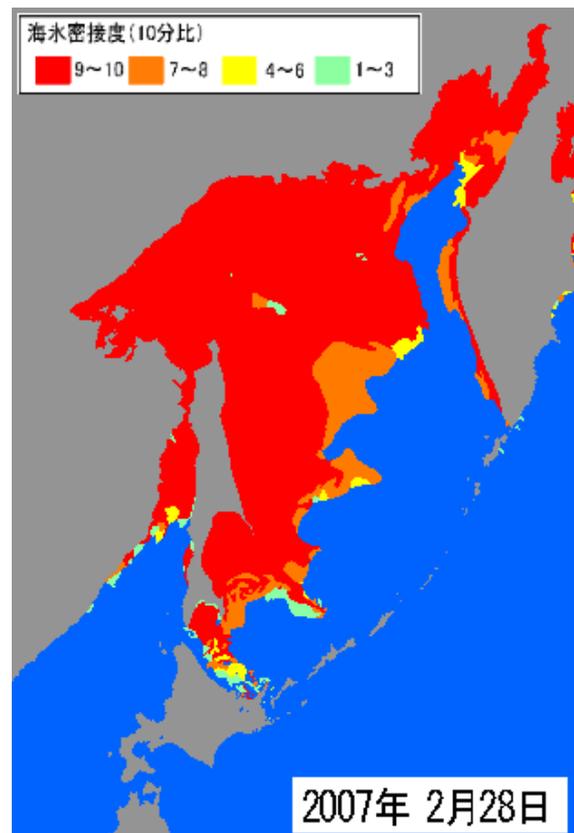
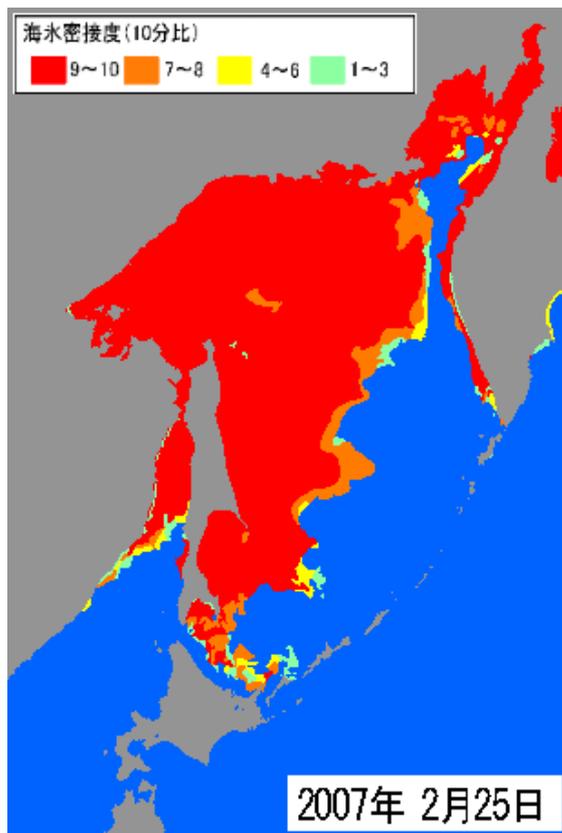
## 2. 海水概況

**2月** オホーツク海全域の海水域面積は、平年より小さく経過した。北海道では気温が平年より高く経過したことから、北海道沿岸に接近した流氷は融解しやすい状態が続き、網走での流氷接岸初日は平年より遅い16日となった。月を通して、北海道オホーツク海沿岸の流氷は、接岸と離岸、宗谷海峡や根室海峡への小規模な流入と融解を繰り返した。

海水状況(上段)及び気象経過(下段)	海水現象初終日 (平年差 / 昨年差)
<p><b>上旬(1日~10日)</b> 北海道オホーツク海沿岸の流氷は、所々で接岸し、再び離岸するという動きを繰り返し、広い範囲では接岸しなかった。また、宗谷海峡や根室海峡では、小規模な流氷の流入と融解を繰り返した。</p> <p>オホーツク海の海水域面積は、平年より小さかった。</p> <p>低気圧が短い周期で北海道付近を通過し、通過後は一時的に冬型の気圧配置となった。</p> <p>オホーツク海側4地点(北見枝幸、雄武、紋別、網走)の旬平均気温は、平年より高かった(平年差 +2.4 )</p>	
<p><b>中旬(11日~20日)</b> 北海道オホーツク海沿岸の流氷は、引き続き離岸と接岸を繰り返したが、旬の半ばには流氷の動きが活発となり、網走では16日に流氷接岸初日となった。流氷は宗谷海峡に流入し、旬の半ばには一部が日本海へ流出したが、旬末には融解した。また、流氷は根室海峡にも流入したが、短時間で融解した。</p> <p>オホーツク海の海水域面積は、平年より小さかった。</p> <p>低気圧や気圧の谷が短い周期で北海道付近を通過した。</p> <p>オホーツク海側4地点の旬平均気温は、平年より高かった(平年差 +2.6 )</p>	<p>流氷接岸初日 16日 網走 (遅15 / 遅10)</p>
<p><b>下旬(21日~28日)</b> 北海道オホーツク海沿岸の流氷は、旬の前半は海岸から離れた状態が続いたが、旬の後半には再び接近し、知床半島の西岸に接岸した。また、根室海峡では、小規模な流氷の流入と融解を繰り返した。</p> <p>オホーツク海の海水域面積は、平年より小さかった。</p> <p>高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、26日から27日にかけて、低気圧が北海道の北を発達しながら通過した。</p> <p>オホーツク海側4地点の旬平均気温は、平年より高かった(平年差 +2.0 )</p>	

### 3. オホーツク海全域の海水分布図

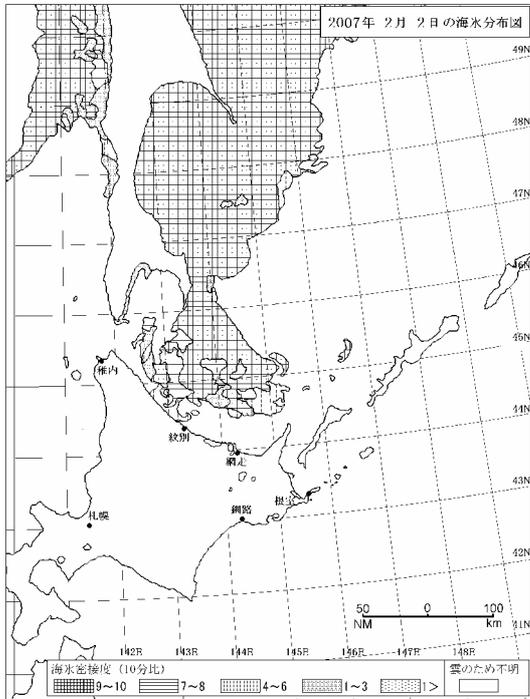




#### 4. 北海道周辺海域の海水実況図

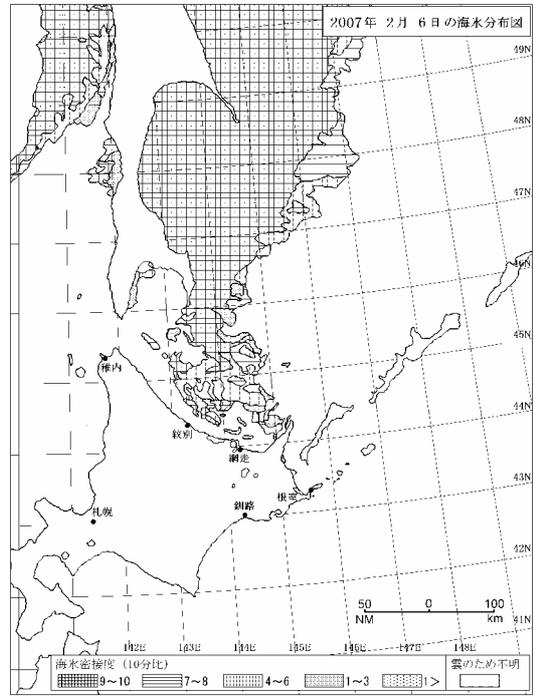
海水実況図中の記号は  $\frac{\text{密接度}}{\text{海水の種類}}$  を表す。

平成 19 年 2 月 2 日



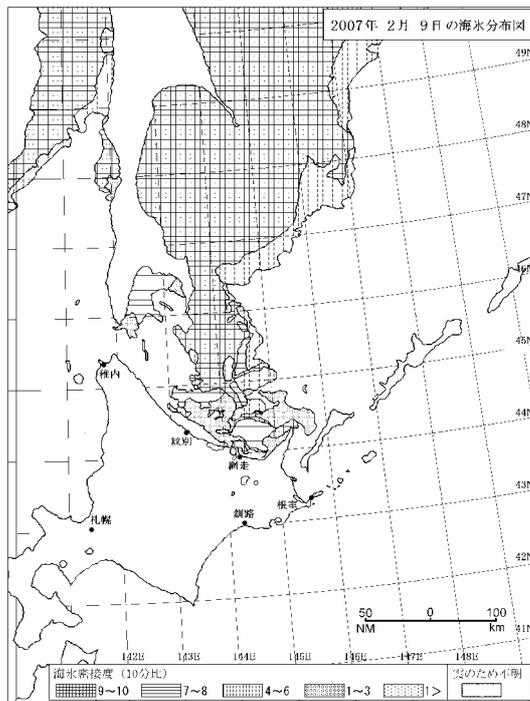
資料：気象衛星

平成 19 年 2 月 6 日



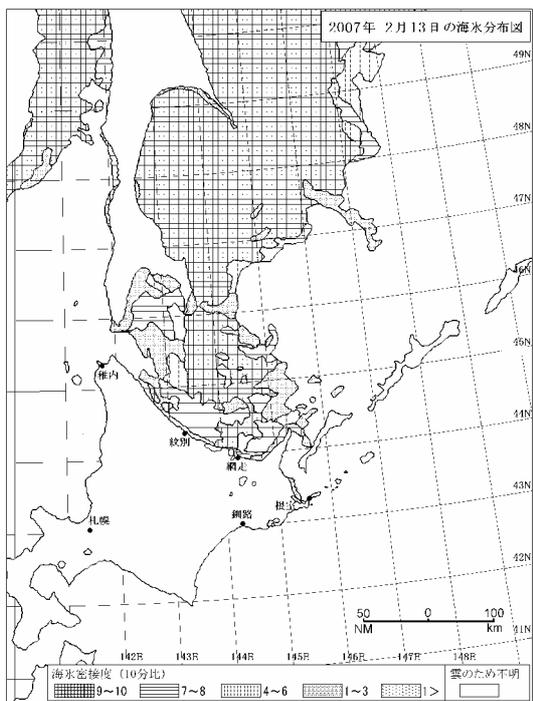
資料：気象衛星・海上保安庁

平成 19 年 2 月 9 日



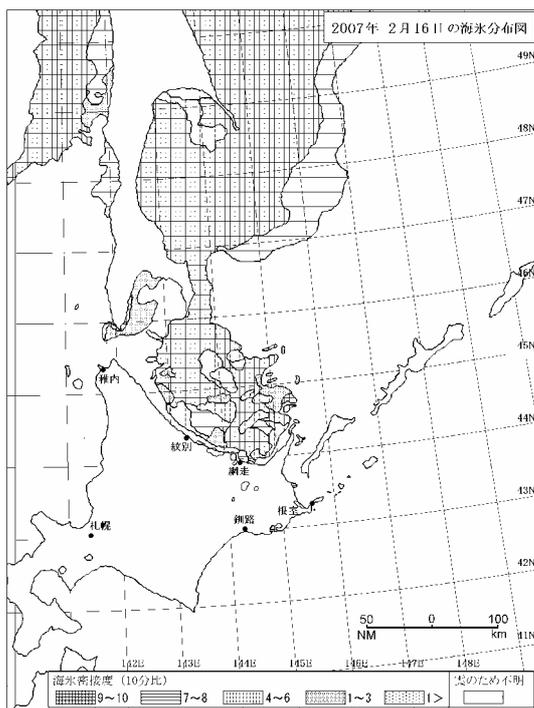
資料：気象衛星・海上保安庁

平成 19 年 2 月 13 日



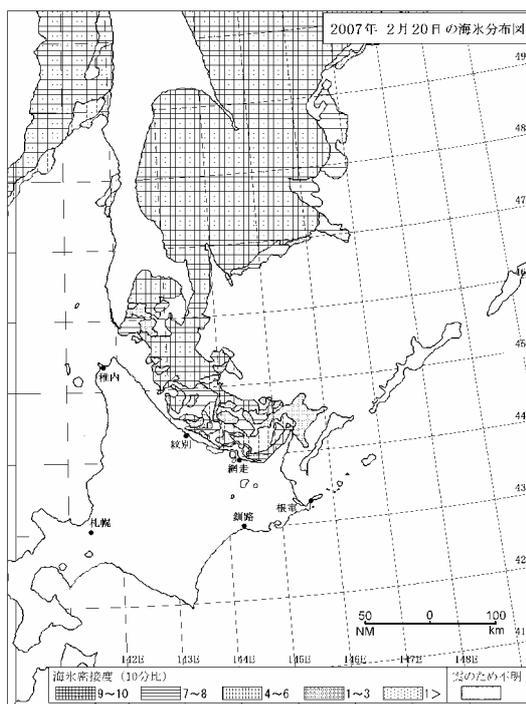
資料：気象衛星・陸上自衛隊

平成 19 年 2 月 16 日



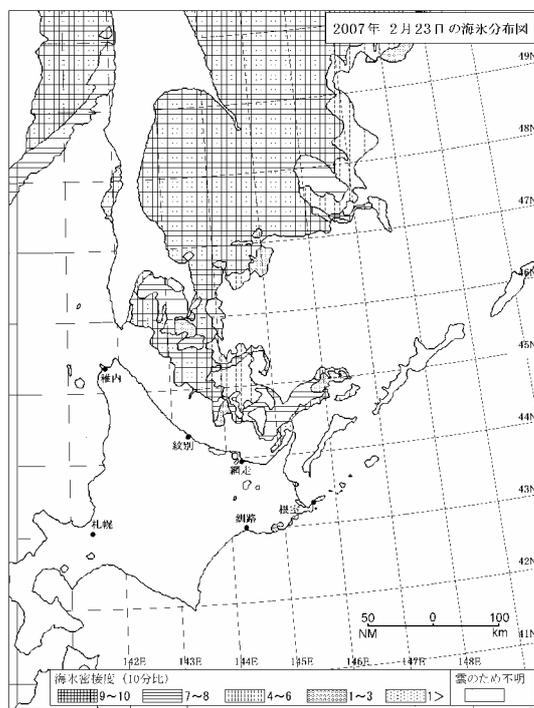
資料：気象衛星

平成 19 年 2 月 20 日



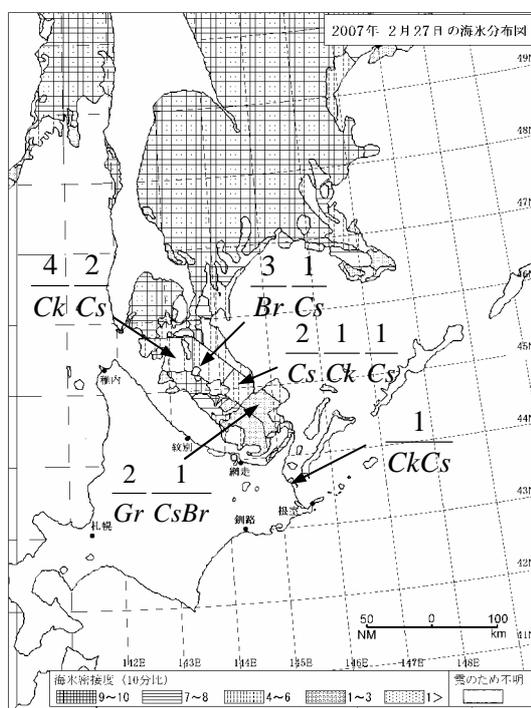
資料：気象衛星

平成 19 年 2 月 23 日



資料：気象衛星

平成 19 年 2 月 27 日



資料：気象衛星・海上自衛隊

## 5. 沿岸海氷観測月表

### 沿岸海氷観測月表の説明

- (1) 定時観測は9時に行う。
- (2) 全氷量は視界内海面に対する氷量を表す。
- (3) ×は不明を表し、全氷量の括弧は視程障害(5~10km)時の観測を表す。
- (4) 分布状況は、表5-1を参照。
- (5) 結氷の初終日の観測は、1995年海氷年度(1994年~1995年)から全て廃止となった。
- (6) 沿岸海氷観測は、2004年海氷年度(2003年~2004年)から、全氷量、沿岸海氷の分布状況及び海氷現象の初・終日のみとなった。

表5-1 沿岸海氷の分布状況

0	流氷がない。
1	水平線上に流氷が見える。
2	沿岸に定着氷域があり、水路を隔ててその沖に流氷がある。
3	沿岸は水路となって、沖合が流氷域となっている。
4	沿岸は流氷域となって、その沖合には流氷がない。
5	沿岸に流氷域があり、水路を隔ててその沖合も流氷域となっている。
6	沿岸の定着氷に流氷が接着している。
7	視界内の海面はほとんど流氷域となっている。
8	流氷は港までせまっている。
9	流氷は港内にも入り込んでいる。
/	不明

注1：該当する項が2つ以上ある時は、数字の大きい方を使用する。

注2：分布状況には氷量・密接度の大小は関係しない。

ただし、数字符号7は氷量9以上の場合とする。

2007年2月

## 沿岸海水観測月表

定時観測(09時)

稚内地方気象台

日	全氷量	沿岸海水の分布状況	記 事
1	(0+)	0	雪のため視界内海面での観測
2	0		
3	0		
4	×	×	ふぶきのため不明
5	0		
6	0		
7	0+	0	
8	0		
9	0		
10	0+	0	
11	0+	0	
12	(0)		雪のため視界内海面での観測
13	0+	0	
14	0+	0	
15	×	×	雪のため不明
16	0		
17	(0+)	0	雪のため視界内海面での観測
18	0		
19	0+	0	
20	0		
21	×	×	雪のため不明
22	(0)		もやのため視界内海面での観測
23	(0)		もやのため視界内海面での観測
24	0		
25	0		
26	0+	0	
27	×	×	雪のため不明
28	×	×	雪のため不明
29			
30			
31			

概 況

月を通して港内結氷のみだった。

海水現象初終日	平年差	昨年差
流水初日		
流水接岸初日		
海明け		
流水終日		

2007年2月

## 沿岸海水観測月表

定時観測(09時)

紋別測候所

日	全氷量	沿岸海水の分布状況	記 事
1	0 +	1	
2	(3)	2	雪のため視界内海面での観測
3	3	2	
4	x	x	雪のため不明
5	1	1	
6	x	x	雪のため不明
7	x	x	雪のため不明
8	1	1	
9	0 +	1	
10	3	2	
11	3	2	
12	x	x	雪のため不明
13	4	2	
14	4	2	
15	x	x	雪のため不明
16	x	x	雪のため不明
17	7	2	
18	4	2	
19	x	x	雪のため不明
20	3	1	
21	2	1	
22	2	1	
23	0 +	0	
24	0 +	0	
25	0 +	0	
26	0 +	0	
27	0 +	0	
28	0 +	0	
29			
30			
31			

## 概 況

月を通して南から南西風系の日が多く、水平線  
上に見えることが多かった。月末には視界外に  
遠ざかった。

海氷現象初終日	平年差	昨年差
流水初日	1月26日	4日遅い
流水接岸初日		
海明け		
流水終日		

2007年2月

## 沿岸海水観測月表

定時観測(09時)

網走地方気象台

日	全氷量	沿岸海水の分布状況	記 事
1	0 +	0	
2	(0 +)	0	雪のため視界内海面での観測
3	0 +	0	
4	0		
5	0 +	2	
6	0		
7	×	×	雪のため不明
8	4	5	
9	(3)	2	雪のため視界内海面での観測
10	7	2	
11	6	2	
12	3	2	
13	7	6	
14	7	6	
15	(4)	2	雪のため視界内海面での観測
16	×	×	雪のため不明 15時20分流水接岸初日
17	9	9	
18	6	7	
19	8	6	
20	3	3	
21	1	3	
22	1	3	
23	1	4	
24	0 +	0	
25	0 +	0	
26	0 +	0	
27	0 +	0	
28	0 +	2	
29			
30			
31			

海水現象初終日		平年差	昨年差
流水初日	1月18日	2日早い	5日早い
流水接岸初日	2月16日	15日遅い	10日遅い
海明け			
流水終日			

## 概 況

5日から15日にかけて小規模な流水域が接近・後退を繰り返し、16日には流水接岸初日となった。17日から流水は融解・後退を始め、21日以降は全氷量が1以下の状態が続き、流水が視界外まで後退する日も多くなった。

2007年2月

## 沿 岸 海 氷 観 測 月 表

定時観測(09時)

根 室 測 候 所

日	全氷量	沿岸海水の分布状況	記 事
1	(0)		もやのため視界内海面での観測
2	0		
3	0+	0	
4	(0)		雪のため視界内海面での観測
5	0		
6	0		
7	0		
8	0		
9	0+	0	
10	0		
11	×	×	雪のため不明
12	0		
13	0		
14	0+	0	
15	×	×	雪のため不明
16	0		
17	0+	0	
18	0+	0	
19	0		
20	0+	0	海氷現象終了
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			

海氷現象初終日	平年差	昨年差
流水初日		
流水接岸初日		
海明け		
流水終日		

概 況  
 ・ 2月20日を最後に定着氷が見られなくなった。  
 ・ 今年度は流水を観測することはなかった。

2007年2月

## 沿岸海水観測月表

定時観測(09時)

釧路地方气象台

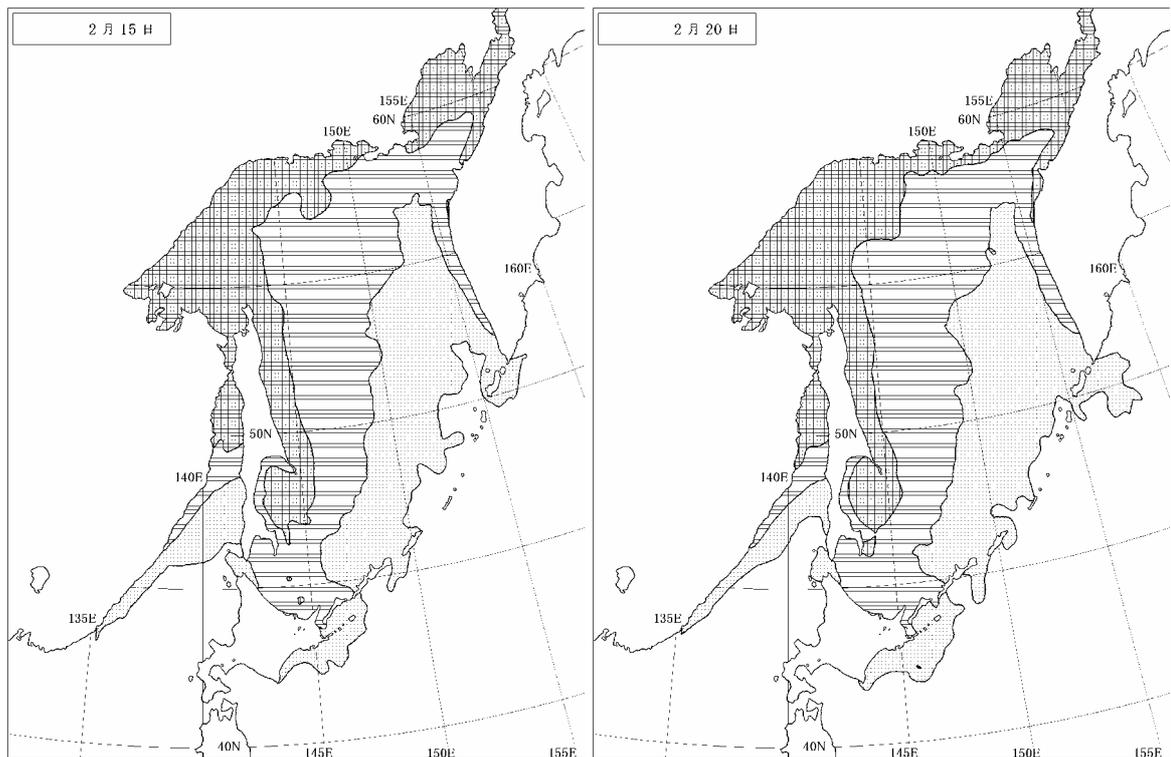
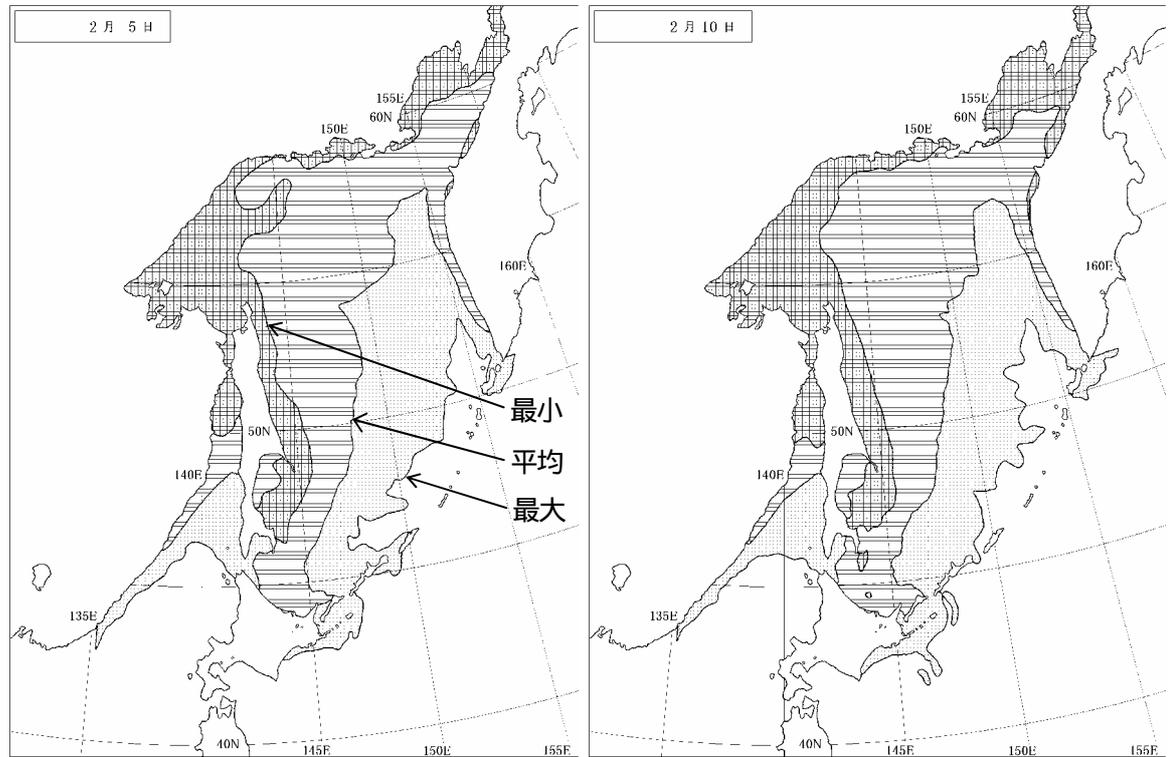
日	全氷量	沿岸海水の分布状況	記 事
1	0		
2	0		
3	0 +	0	
4	0		
5	0 +	0	
6	0		
7	0		
8	0		
9	1	0	
10	0 +	0	
11	×	×	雪のため不明
12	0		
13	0 +	0	
14	0 +	0	
15	×	×	雪のため不明
16	0		
17	0 +	0	
18	0		
19	0		
20	0 +	0	
21	0 +	0	
22	0 +	0	
23	0		
24	0		
25	0 +	0	
26	0 +	0	
27	0 +	0	
28	0		
29			
30			
31			

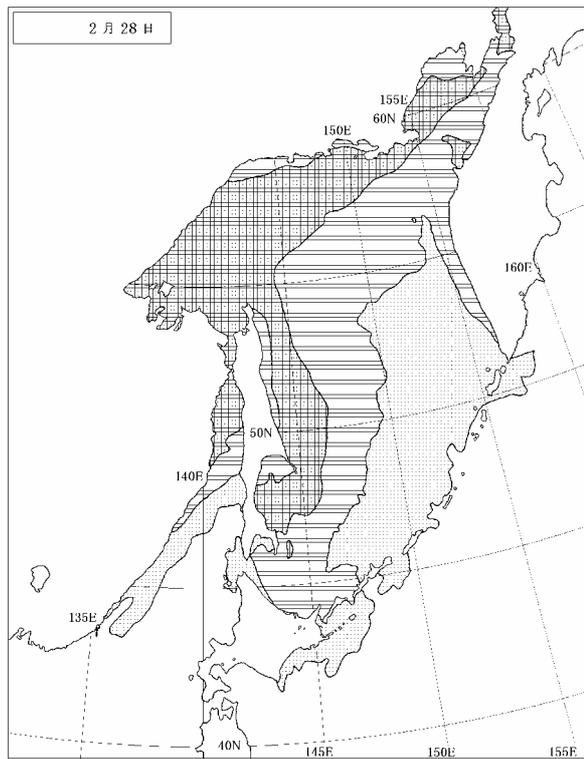
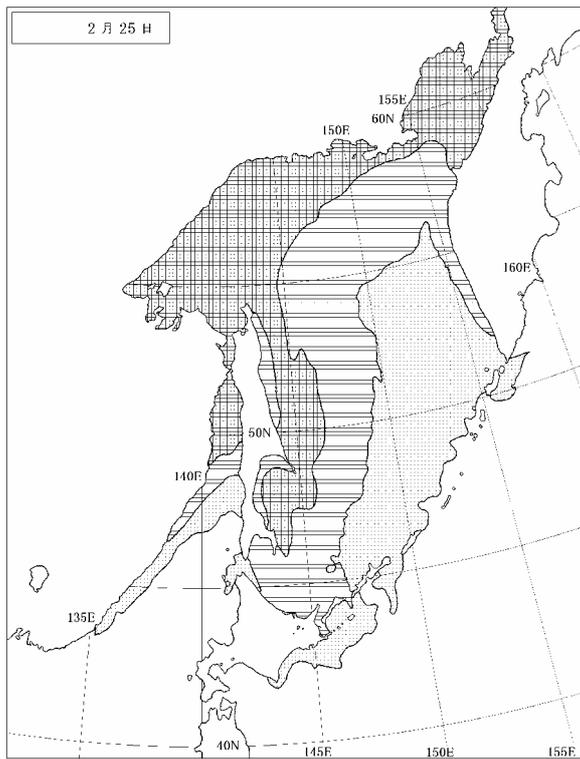
概 況  
 冷え込みにより南防波堤付近に定着氷を観測。

海水現象初終日	平年差	昨年差
流水初日		
流水接岸初日		
海明け		
流水終日		

## 6. 参考資料

### 6.1 オホーツク海30年平均半旬別氷縁図(1970/1971 ~ 1999/2000)





## 6.2 流氷初終日等の平年値(1971～2000年の平均)

地点	稚内	紋別	網走	根室	釧路
流氷初日	2.10 (22)	1.22 (30)	1.20 (30)	2.13 (28)	3.1 (11)
流氷終日	3.11 (22)	4.5 (30)	4.16 (30)	4.2 (28)	3.18 (11)
流氷期間	30 (22)	74 (30)	87 (30)	49 (28)	18 (11)
流氷接岸初日	2.14 (11)	2.5 (30)	2.1 (29)	2.18 (24)	×
海明け	—	3.16 (30)	3.24 (29)	—	—

- × : 観測項目にあるが、現象を観測した年数が8年未満のため、平均値を算出しない。  
 : 観測項目にない。  
 ( ) : 統計期間内において現象を観測した年数。

注1 : 初日・終日は現象のあった年についての平均。

注2 : 流氷期間の平年値は、初日と終日の平年値から算出した値。

注3 : 結氷の初日、終日の観測は、1995年海水年度(1994年～1995年)から廃止となった。